

# 地域活性化 京都府福知山市 「みわ・ダッシュ村」から という「遊び」 80 山本晋也

## 筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動しながらオーガニックレストランを経営。食材調達のため畑も始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。現在みわ・ダッシュ村副村長。

ジビエ施設がいよいよ本格稼働。ところが肝心の鹿がなかなか罠にかからない。罠道を読み直して罠の数も増やし……プロになる厳しさを実感した1カ月間。

## 山の神様 ありがとうございます

みのりの秋に  
なんとなく冬の匂いも感じ  
るほど

朝晩涼しい限界集落ですが  
待望のジビエ加工施設いよいよ本  
格稼働です。  
稼働前まで  
農場からの帰り道  
毎日のように鹿を見かけるし  
放っておくと  
農地が芝刈り機で刈ったように



本格稼働後初の獲物。

草が食べられてしまうほど  
山にはたくさん鹿がおり  
罠道を見つけ  
数箇所罠を設置すると  
数日後には必ずと言っていいほど  
鹿が獲れていたの  
ちよつと容易に考えていたのが災  
いしたのか  
いざ稼働となつて2週間  
いつものように罠を設置するも  
なぜか1頭も獲れず  
毎日見回りを終えて帰ってくる  
長男の顔は  
日に日に暗くなるばかり。  
考えてみれば

くくり罠の踏み板の大きさは  
直径たったの12センチ。  
この果てしなく広い野山で  
その小さな円の中心を獲物がジャ  
ストで踏んでくれなければ罠には  
かかりません。  
今までよく簡単に獲れていたもの  
です。

## 動物の方も

自分たちの命がかかっている  
るので  
やはり警戒しています。  
子たちが一生懸命やればやるほど  
罠の周りに気配が  
残ってしまうのか  
さらに2週間たつても  
音沙汰なし。  
若いとはいえ  
もうプロフェッショナル。  
新たな施設の電気代も毎月かかる  
わけで  
獲物が獲れなければ  
食べていきけません。  
楽天家の子たちも  
流石に危機感を感じ  
罠道の読み方を  
もっと注意深く観察し  
設置場所も数センチレベルで  
シビアに調整。  
そして罠の数を増やすことにしま  
した

罾を増やすといってもワイヤーやスプリングを使って自作しているの  
3人で1日がかり。  
設置した罾は毎日見回らなければ  
ならないので

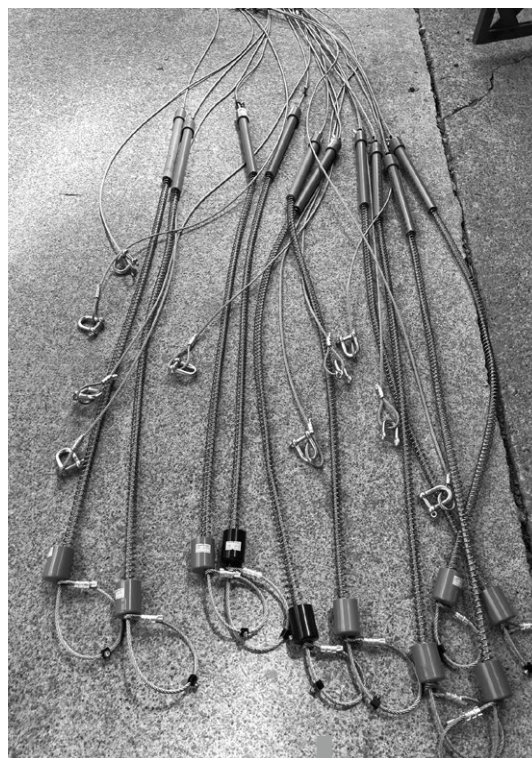
増やすとその分朝の見回りが広範囲に渡るので見回りだけでも非常に時間がかかります。作業やレストランの合間を縫って

## 農

作業やレストランの合間を縫って



清掃はとて大切。  
施設を作る苦勞を味わっているの  
隅々まで綺麗にします。



作りは非常に大切。  
作りが悪いと  
命に関わることも。



徹夜続きで  
昼食終わったら  
そのままテーブルで  
寝てしまいました。

睡眠時間も削って  
取り組むことさらに1週間  
稼働後初めての  
獲物がかかりました。  
喜んだのも束の間  
ワイヤーにかかった獲物を  
無事捕まえてきて  
竹藪の涼しいところで  
休ませていたのですが  
いざ屠殺解体しようと  
夕方見に行くと  
この季節涼しい竹藪といえども  
まだ暑かったのか  
獲物は死んでいました。  
死んでしまうと  
屠殺時に血が抜けないし  
内臓から腐敗が始まっていること  
もあり  
食用にはできません。  
仕方なく諦めました。  
その三日後  
また獲物がかかり  
今度は加工施設の  
エアコンの効いた部屋に保管。  
今回は屠殺血抜きもうまくいき  
初めてジビエ商品ができました。  
自分たちも大工仕事から手伝って  
できた施設なので  
作業後の掃除も念入りにしていた  
ら終了したのが午前4時。  
その数時間後には

朝の見回りです。  
幸か不幸か  
その朝またも獲物がヒット。  
眠い目を擦り擦り  
獲物に立ち向かいます。  
寝不足で獲物に立ち向かうのは  
非常に危険ですが  
相手は生き物ですので  
待っていてはくれません。  
もたもたしている  
罾にかかったまま  
死んでしまったり  
体を地面にぶつけたりして  
肉の品質が落ちてしまいます。  
この日も前日と同じように  
朝方まで頑張り  
体力的には  
とても大変そうでしたが  
自分たちで捕まえたものが  
自分たちの収入になるとい  
う  
ありがたみと  
獲物が獲れなければ  
食べていけない  
そして  
少しの油断が大きな失敗につなが  
るとい  
プロになる厳しさも  
同時に実感できた1ヵ月。  
子たちにとっては  
素晴らしい船出となりました。  
山の神様ありがとうございます。